



第39回「日本賞」作品募集中! 締切:2012年6月30日(土)

「日本賞」は、テレビ、ビデオ、映画などの映像メディアのみならず、ウェブサイト、教育ゲーム、その他双方向コンテンツまで教育効果のあるあらゆるオーディオ・ビジュアル・メディアを審査対象としています。

コンテンツ部門

カテゴリ	コンテンツ対象
<幼児向け>	0-6歳
<児童向け>	6-12歳
<青少年向け>	12-17歳
<生涯教育>	18歳以上
<福祉教育>	全年齢
<イノベティブ・メディア>*	全年齢

この他に3つの特別賞を設けています。

受賞賞金は各カテゴリ2,000米ドル。さらにその中から「グランプリ日本賞」が選ばれ賞金5,000米ドルが追加授与されます。

*イノベティブ・メディア カテゴリとは?

対象年齢やテーマなど従来の「日本賞」のカテゴリ枠にはまらず、革新的なメディア活用に挑んでいるコンテンツを対象とした、去年新設されたばかりのカテゴリです。教育コンテンツの新たな境地を切り開くことに挑戦している作品の応募をお待ちしております!



第38回イノベティブ・メディア カテゴリ最優秀賞 『デビッド・スズキと試験管』はウェブサイト作品。

参加費無料

企画部門

企画部門賞は、予算・機材などの条件が十分でない国・地域における優秀なテレビ教育番組企画の実現を支援し、世界の教育放送の向上への貢献を目的とします。

*日本の機関は応募することができません。

ご応募いただく際の注意点

- 各機関、1カテゴリにつき1本の作品を応募できます。
- 1機関が全カテゴリにエントリーする場合、合わせて6作品までの応募が可能です。
- 異なるプラットフォームで制作された同じタイトルの作品は1作品として数えます。

「日本賞」とは?

第38回「日本賞」コンテンツ部門審査委員長コラム

若く新しい世代が誕生するのを見届けるのは嬉しい事です。国境が消え、企業の力が増大しているこのネット社会に生まれ、彼らは真の地球市民として成長しているのです。彼らは自分たちの未来を築くためにメディアやインターネットの力を利用しています。若者たちによる前例のない世界との関わり方を、私たちは目撃しているのです。

「日本賞」では、まさしくこの課題について世界中の専門家が集結して意見を交わします。このイベントは、世界中の優れた教育コンテンツに身を浸しながら、触発、対話、熱い議論が繰り広げられる環境を築きます。昨年度の応募作品で追求された主題は、公民権、環境、経済、哲学、数学と、大変多様性に富んだものでした。さらに、短編、シリーズ、劇映画、ゲームと、ありとあらゆるメディアによって伝えられました。そこには、いかに惹きつけ、挑戦し、触発し、そしていかに教育コンテンツとして仕上げるかという共通の目的があるのです。リニアであろうとデジタルであろうと、国際的な理解と協力を育てるという目的です。

昨年は名誉なことに審査委員長として議論し、試行錯誤させていただきました。私たちが直面している現実から一歩退き、作品に触発され、世界中から集まった献身的なプロフェッショナル達との魅力ある対話に参加することは、業界のプロフェッショナルとして重要なことです。私たちは皆、この豊かな経験を積むことができました。



デボラ・ドリスデル
カナダ国立映画制作庁(NFB)デジタル推進局長